

第139回 経営協議会（定例）議事要旨

日 時 令和4年11月24日（木）13:28～15:01
場 所 事務局特別会議室（4階）

- 報告事項1. 学長選考・監察会議の審議状況について（資料1）
- 報告事項2. 医学部の収容定員の増加について（資料2）
- 報告事項3. 共同研究講座「DDS 創薬学共同研究講座」の研究経費の増額について（資料3）
- 報告事項4. 令和4年度上半期資金運用実績について（資料4）
- 報告事項5. 本学教育研究評議会での審議事項等について（資料5）
- 報告事項6. 記者発表事項等について（資料6）
- 協議事項1. 民間的発想のマネージメント手法の導入状況（資料7）

その他

[出席委員] 12名

佐野学長

(理事) 馬場、越塩、岩井、武隈、田頭

(学内委員) 坂本

(学外有識者) 池田、坪内、津曲、中村、福元

[欠席委員] 3名

(理事)

(学外有識者) 上村、塩田、山野

[オブザーバー]

(理事) 石窪、萩元

(監事) 日高、松枝

(副学長) 森

(学部長等) 松田、有倉、岡村、橋口、西村、木下、橋本、佐久間、三角、山口、井戸、中原、寺田

報告事項1. 学長選考・監察会議の審議状況について（資料1）

学長選考・監察会議議長の坪内委員から、学長選考・監察会議の審議状況について、令和4年9月22日開催の第95回学長選考・監察会議で実施した、学長の令和元～3年度の業績評価（中間評価）について、資料に基づき説明があった。

報告事項2. 医学部の収容定員の増加について（資料2）

越塩理事から、医学部の収容定員増加の設置計画が可となったことについて、資料に基づき説明があった。

報告事項3. 共同研究講座「DDS 創薬学共同研究講座」の研究経費の増額について（資料3）

岩井理事から、大学院医歯学総合研究科長から申請のあった共同研究講座「DDS 創薬学共同

研究講座」の研究経費の増額について、資料に基づき説明があった。

報告事項4. 令和4年度上半期資金運用実績について（資料4）

田頭理事から、資金運用管理規則に基づいた、本学における令和4年度上半期の資金運用実績について、資料に基づき説明があった。

報告事項5. 本学教育研究評議会での審議事項等について（資料5）

本学での動向等を把握していただくために教育研究評議会での審議事項等を添付している旨説明があった。

報告事項6. 記者発表事項等について（資料6）

本学の最近の主な記者発表事項等の記事を添付している旨の説明があった。

協議事項1. 民間的発想のマネージメント手法の導入状況（資料7）

学長から、今回の協議事項は、これまでの部局等の協議事項とは異なり、令和4年3月16日（水）開催の経営協議会において、今後の経営協議会・協議事項について、審議する場を設けるべきではないかとの意見を受け、経営協議会委員に協議したい事項の調査を実施した結果を踏まえ、「民間的発想のマネージメント手法の導入状況」について意見交換するために提案した旨説明があり、引き続き、田頭理事から、資産の活用において改善すべき点、決裁権限の分配、鹿児島大学の管理運営体制について、資料に基づき説明があった。

説明の後、各委員から主に次のような意見等があった。

- ① 現状はよく理解でき、学長、局長の考えも資産の適正な管理に努力していることは理解できたが、資産の有効活用のモニタリングがしっかりできていたのかという点が問題で、今後のモニタリング等もしっかりできるかが一番の問題である。

例えば、理事会の重要な審議事項の一つとして資産の有効活用を執行部が意識してやっていくことが重要だと思う。

また、鹿児島大学の管理運営体制が効率的ではないとの意識を持ちながら、長きにわたりそのままになっているのは、学内の利害関係者が多く、なかなか大きな声を出しづらいところがあるのではないかと考えている。根本的なところを変えるには外圧に頼らざるを得ないと思うので、経営協議会の外部委員を外圧として上手く利用していただき、効率化を進めていただければと思う。

- ② 国立大学だけではなく、私学や企業でも大きな悩みどころとなっており、基本的にはダウンサイジングしていく必要があるのではないかと考えている。

資産の活用については、固定資産のチェックリストを年に1回は作成し、稼働率を上げていくことが重要である。稼働率が上がらない場合は転用を検討し、転用でも難しい場合は賃貸、最終的に売却というプロセスになる。

また、稼働率を上げる方法を考えることが活力になり、新たな発想がでてくることもあるため、様々な資産において定点観測していくことが重要である。

- ③ 学長・理事連絡会議と大学運営会議の違いは、副学長の2人が違うだけで、ほぼメンバーが同じとなっている。以前はメンバーが違っていたため、このような形となっているが、佐野学長になった時に、変えなければいけないということで、かなり改善はされてきている。しかし、未だにそのような部分を引きずっているのが現状となっている。

また、学長・理事連絡会議と大学運営会議の住み分けが非常に曖昧になっており、どこで

判断してもっていくのか、両方にかけていけないのではないかの判断は、事務の方でもかなり苦労して調整をしているのではないかと思う。

その他

次回（定例）は、令和5年1月26日（木）13時30分からとなった。